

# 災害時物資調達・輸送マニュアル（骨子）

【構成イメージ】

## 1章 総則

目的、基本方針、国・県・市の役割分担、関係機関との連携、用語の定義のほか、物資を受け入れ、配布するために収集すべき情報と収集方法などを記載します。

過去の災害を参考に、フェーズごと（特に発生から 1 カ月間）の求められる物資のニーズを整理しておきます。

新物資システム（B-Pl0）の活用について

自衛隊との連携も記載します。（要請スキームも整理します。）

### 【アドバイスして欲しい内容】

- ・物資を受け入れ、配布するために収集すべき情報
- ・このマニュアルを発動する目安
- ・物資伝票の様式
- ・避難所⇒災害対策本部⇒地域内物資拠点（備蓄倉庫）の情報（物資伝票）の流れ
- ・フェーズの移行に合わせた求められる物資

## 第2章 備蓄物資の配布（発災直後から3日間まで）

松山市内に 5 カ所の備蓄倉庫があります。主に、アルファ米、飲料（500ml 水）、毛布、携帯トイレ、トイレトーパー、段ボールベットなどがあります。そこに置いている物資の避難所への配布方法などを記載します。

各倉庫に職員を配置して災害対策本部とやり取りし、協定を活用して赤帽の軽トラックで配布したいと思っています。

この段階では、避難所からの物資の要請ではなく、避難所避難者数に対して、必要数を本部で勘案（算定）して配布するほうが良いと考えています。

品目は、プッシュ型支援基本 8 品目（①食料（飲料水）、②毛布、③乳児用ミルク、④子供用おむつ、⑤大人用おむつ、⑥携帯トイレ・簡易トイレ・⑦トイレトーパー、⑧生理用品）に加え、⑨段ボールベットを想定しています。

どの倉庫に、何が、どれだけあるかを整理し、情報を更新する仕組みもここで構築しておきます。

## 【アドバイスして欲しい内容】

- ・避難所にいる避難者数に対して、何をどれくらい送るかをどう判断するか。
- ・災害対策本部から備蓄倉庫の情報の伝達方法（伝票を使ったほうがよいのか）
- ・トラックをどうさばくのか（1つの避難所に1台？近くの避難所のもののは合わせて載せる？べきか）

### 第3章 プッシュ型支援の受入れ、配布

県の広域物資拠点を通じて配布される物資の受入れ、配布を定めます。

（物流事業者への協力要請）

ここで、流通事業者に協力を要請することを規定します。

県が各事業者と締結している協定、市が締結している協定の要請のスキームを記載します。

（地域内輸送拠点の設置）

市内や近隣に事業所を置く流通事業者についても、抽出して整理しておきます。

地域内物資拠点の設置も定めます。

農業協同組合などが所有する選果場など、民間が所有する倉庫で災害時借り受け、地域内輸送拠点として活用できる施設なども、抽出して整理しておきます。

中央市場や三津市場など、市が所有する施設で、地域内輸送拠点として活用できる施設なども、抽出して整理しておきます。

民間の地域内輸送拠点となる施設を紹介してくれる組織や団体も、抽出して整理しておきます。

地域内輸送拠点設置のスキームを整理しておきます。

交通状況（インターチェンジとの距離）、被災状況、ライフラインの状況など、地域内輸送拠点の選定する上で、参考とする情報も記載します。

フォークリフト、パレットなど、地域内輸送拠点で必要となるものを記載します

地域内輸送拠点の物資の配置のサンプルも記載します。

1箇所では集約できない場合の対応も記載します。（品目で分けるのか、地域で分けるのか）

（仮置き場の設置）

配布されたもののすぐには使わない物資の仮置き場の選定も記載します。

（輸送）

輸送する上での注意事項も整理します。

避難所に配送するには、どのような車が適しており、例を挙げてどれくらい積載できるのか整理しておく。

【アドバイスして欲しい内容】

- ・ 地域内輸送拠点として活用しやすい施設の条件
- ・ 民間の地域内輸送拠点となる施設を紹介してくれる組織や団体
- ・ 交通状況（インターチェンジとの距離）など地域防災拠点を選定する上でのポイント
- ・ フォークリフト、パレットなど、地域内輸送拠点で必要となるもの
- ・ 地域内輸送拠点の物資の配置例
- ・ 1箇所では集約できない場合、品目で分けるのか、地域で分けるのか
- ・ 配布されたもののすぐには使わない物資の置き場は空になった備蓄倉庫を考  
えていますが、適しているのか？
- ・ トラックをどうさばくのか（1つの避難所に1台？近くの避難所のものは合わ  
せて載せる？べきか）

#### 第4章 プル型支援の受入れ、配布

ここでも、県の広域物資拠点を通じて配布される物資の受入れ、配布を定めます。プル型支援への移行を判断する上で、参考とすべき情報を整理しておきます。基本的な事項は、「第3章 プッシュ型支援の受入れ、配布」を参考とします。

#### 第5章 市独自での調達と配布（発生直後から）

被害の程度によりますが、様々な物資を、市内や近隣の協定事業者から調達し配布することも考えられます。

どの協定事業者であれば、どの品目が調達可能かを整理し、情報を更新する仕組みもここで構築しておきます。

フェーズごとに、市内や近隣の協定事業者からの調達すべき品目を整理する。

【アドバイスして欲しい内容】

- ・ 物資の調達ができただけの場合、事業者それぞれが避難所に搬送するのか、地域内輸送拠点に集約して避難所ごと配布するのか、地域内輸送拠点以外に別の拠点を構え別ルートで配送すべきなのか
- ・ 品目に応じて直接避難所に配送したほうがよいのであれば、その品目。
- ・ フェーズごとに、市内や近隣の協定事業者からの調達すべき品目

## その他 1 平時・有事の際の物資管理手法

上記の第 2 章～第 5 章を通じ、平時の公的備蓄物資、有事のプッシュ型・プル型により確保する物資の保管・管理手法について、効果的な手法を検討して整理します。

なお、その際、DX化もあわせて検討します。

## その他 2 考慮すべき計画等

本マニュアルを策定するにあたり、以下の計画等と整合を図るよう考慮が必要です。

(国交省) ラストマイルにおける支援物資輸送・拠点開設・運営ハンドブック

(国交省) 広域物資拠点開設・運営ハンドブック

(愛媛県) 愛媛県広域防災活動要領

(愛媛県) 愛媛県救援物資供給マニュアル

(松山市) 松山市地域防災計画

(松山市) 松山市災害時受援計画

(松山市) 松山市備蓄計画、備蓄物資一覧

(松山市) 松山市避難所運営管理マニュアル

(松山市) 松山市業務継続計画